

# 広報すずらん

2015(平成27年)

1月発行  
第54号

発行日：平成27年1月1日（平成8年創刊）

発行元：社会福祉法人すずらの会 理事長 大長義信

〒252-0328 神奈川県相模原市南区麻溝台7-1-7 TEL:042-749-8881

編集：広報委員会 ホームページURL: <http://www.suzuran.or.jp>

## 新年のご挨拶

理事長 大長 義信

明けましておめでとうございます。

旧年中は皆さま方から暖かいご指導とご鞭撻を頂き、誠にありがとうございました。お陰さまで私ども法人の事業運営は大過なく過ごすことが出来ました。厚く御礼を申し上げます。

近年、社会福祉法人の地域での在り方が何かにつけて話題に上るようになっております。社会福祉法人が地域で担うべき役割が今迄以上に明確になり、公益的活動を継続的に担保出来る様な法整備も来年度には行われる事と思われま。

一般社会の理解が得られ、法人の活動が地域で認知されるように私たち自身が日頃の努力を惜しまないようしっかりと心に刻み、事業活動を推進していく所存でございます。一昨年から取り組んで参りました新施設の建設も順調に進み、今春には開設の目途がつかました。今年一年が実り多き年になりますよう念じつつ、あわせて皆さま方のご多幸をお祈りします。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。



ハーブ演奏：操 美穂子さん

## カフェライブ～プロが奏でる音楽で癒しのひと時を～

大和市障害者自立支援センターに喫茶スペースがある事をご存知でしょうか。“障害の有無にかかわらず、地域の人たちが交流を深められる場所”をめざして、平成19年3月より、Cafe ふらっとの営業を始めました。Cafe ふらっとでは、定期的に（年4回土曜日）カフェライブを開催しています。カフェライブは音楽分野でプロとして活躍している方をお招きし、演奏をして頂きます。各出演者が約二時間のライブの中で、素敵な演奏やトークでお客様を楽しませてくれます。初めはCafe ふらっとを地域の方に知ってもらうことを目的に行っていました。地域の方にも少しずつ広まり、ここ最近では会場が満席となるほどの大盛況となっています。お客様からも「身近な場所でプロの演奏を聞けるので嬉しい！」といった声を頂いています。また、カフェライブ開催時は市内の福祉施設がパンの販売に来るなど、地域の交流の場となっています。ぜひ、素敵な音色を堪能し優雅なひと時を過ごしてみませんか。



フルート演奏：山田 恵美子さん



## Cafeふらっと

場所：大和市鶴間1-19-3  
(大和市障害者自立支援センター内)  
電話：046-265-5198  
営業時間：11:00～16:30

## ◆カフェライブ Q&A

- Q1. これまでどのような出演がありましたか？  
A. クラリネット演奏やギター演奏、ラテンジャズピアノ演奏、お琴、アコーディオンなど多岐にわたります。
- Q2. 費用はかかりますか？  
A. 演奏を聴くにあたって費用はかかりませんが、お客様にはカフェを利用して頂いています。お飲み物の他、パンやすずらの家の焼き菓子の販売などもございます。
- Q3. 予約は必要ですか？  
A. 予約の必要はございません。開場時間に合わせてお越しください。
- Q4. カフェライブの情報を知るにはどうしたらいいですか？  
A. 法人のホームページ、大和市障害者自立支援センターのページにイベントの案内を掲示しています。

(取材：山下)

# 新しくなった発達支援部

## 『ぱれっと』からこんにちは



今年度お伝えしている各事業所からのこんにちは。今号は発達支援部の“ぱれっと”を紹介します。すずらんの会の発達支援部では療育に特化した支援を行っています。

(児童発達支援事業/未就学児を対象、放課後等デイサービス事業/18歳までを対象)

平成26年11月、これまで相模原市と大和市に計3か所あった発達支援事業所の内、相模原の2事業所を統合して、新体制でのサービスを開始しました。

相模原市内には『ぱれっと』、大和市内には『ぱれっとやまと』の2事業所体制にした事で、職員の配置が手厚くなり、また、職員間での情報共有がスムーズになった事など、一人のお子さんに対して複数の職員が連携して、チームで支援をする事ができるようになりました。

### ○移転に伴い変更となったところ

小田急相模原駅から徒歩5分の好立地へと移転しました。駅から近くなることで、多くの方により身近な存在として利用して頂ければと思っております。

個別療育の頻度は週1回から月1回と、お子さんによって様々です。低年齢のうちは、たくさん通っていただき、集中的に療育を受けていただくことが良いと考えています。だんだんと他の活動の場が充実していき、ぱれっとの役割が小さくなっていくことが理想です。

もう一つは、予約方法の変更です。お子さんによって成長する時期は様々ですので、必要な時期に多く通っていただくなど、状況に合わせて臨機応変な対応が必要となってきます。また、お忙しい保護者の方々の、急な用事や、ご家庭の都合に柔軟に対応できるように、予約の方法を年間予約から月単位の予約へと変更しました。この変更により、現在保護者の方々へはご心配をおかけしている部分もございりますが、療育室の数も増え、今後は受入数も増やして行く予定です。多くのお子さんとお会いできますよう、体制を整えて行きたいと思っております。



### ☆保護者の方々からの声

- ・集団の中での関わりではなく、一対一の個別で見られるので、子の違った一面が分かり良かった。
- ・利用予定日にどうしても都合がつかなくなってしまった場合でも、他の日に振り替えて予約ができるので助かります。

ぱれっと所在地：  
相模原市南区相南1-22-10 キャッスル相模1F  
TEL: 042-748-1178



### ○ぱれっと療育の特徴

専門職(言語聴覚士・臨床心理士)による個別療育を中心に実施しています。小学校に就学すると、専門家による療育の機会はとても少なくなるのが現状です。しかし、就学後もこどもの発達が続いていきます。就学後も療育を継続できること、そして長期的にかかわれることがぱれっとの大きな特徴です。

### ○個別療育、グループ療育

ぱれっとには、個別療育とグループ療育の2つの形態があります。個別は担当者とお子さん一対一で、グループは2~6人程度のお子さんに担当者2名で実施します。個別では、認知面や言語・コミュニケーション面など、一人ひとりのお子さんに合わせてプログラムを組みます。グループは、個別で学んだコミュニケーションスキルを実際に使用する場であることに加え、社会性やルールの理解などを目標としています。

また、保護者の方々に、前向きな気持ちで子育てしていただけるようにサポートすることはお子さんの療育と同じくらい大切な事です。その為、毎回療育が終わった後には、保護者の方と面談の時間を設けています。



### ○他機関との連携

お子さんは一人ひとりにたくさんの機関が関わっていますので、連携先は多岐にわたります。中でも、園や学校は生活の大部分を過ごす大切な場所です。普段は連絡ノートや電話で、時には直接学校へ出向いたりし、連携してお子さんの支援を行っています。

※11月1日現在の登録者  
2事業所合わせて357名の登録者がいます。  
(取材:和賀)

## 現場の声を聞く!

10数事業所にもまたがるすずらんの会には、多くの非常勤職員が働いています。事業所にとってなくてはならない方々です。

非常勤職員は、どのような事にやりがいを感じるのか、利用者との関わりの中で何を大切にしているのかを伺いたく、今回は、生活介護事業所であるフィルインの職員に話を聞きました。

今回話を聞いたのは、勤続12年目の職員で、フィルインの所在地変更や名称変更など、何度かの変化にも柔軟に対応され、長い間第一線の現場で利用者の支援に携わって来た職員です。

「フィルインの利用者は、個別的な関わりが必要な方ばかりです。大変に感じる事もあるけれど、自分との関わりの中で、利用者が自分のこだわりや主張を切り替えてくれた時にやりがいを感じます。また、私は自分の支援に迷った際に、思い出すことがあります。それは、利用者と同じ目線に立ち、気持ちに寄り添ってみる。そこから支援が始まるということです。フィルインは利用者にと

っても職員にとっても『それで良いのですよ』という肯定感を感じる事が出来る場所です。そういった環境から、大変な事もあるけれど長い間続けてこられたのだと思います。周囲の職員の方々には感謝しています。

フィルインは制度の変更や利用者の変化により活動内容も変化し、作業中心のプログラムになるなど、事業所の雰囲気も以前と比べて変わってきました。

平成26年11月からは、名称が“ぱれっと”から旧名称の“フィルイン”に戻り、定員も10名から20名に増えました。ただ、今後も利用者一人ひとりを大切に支援するという気持ちは変えずに、一緒に成長をしていきたいです。」

話を聞いた職員は終始穏やかな笑みを浮かべながら話をしていました。とても素敵なお話が聞けたと、聞いた私も気持ちがあたたかくなりました。

(取材:井上)

## 地域みなさまに感謝申し上げます。



神奈川県共同募金会を通じて、配分金を頂き、法人内各所の整備に使わせていただきました。

すずらんの家で公用車を購入し、受注作業資材やお菓子の配送等、毎日の作業に活用させていただいております。また、ホームすずらんでは、利用者の居室の照明器具をLED電球に交換し、ベランダには屋根を設置する工事を施しました。暮らしやすいホームへと環境整備が行えて、こうした改善で利用者の笑顔が増え、ますます仕事に励む姿勢も見受けられます。

地域みなさまのあたたかいご厚意に感謝申し上げます。誠にありがとうございました。



なるみハイツ ベランダの屋根



パークハウス 照明器具 すずらんの家 公用車

## 利用者工賃支給額第一位になりました。

ワークショップSUN  
(神奈川県/就労継続支援B型事業所)

神奈川県就労継続支援B型事業所を対象とした利用者工賃の平成25年度実績が発表となり、県内350事業所の中で、すずらんの会からワークショップ・SUNが第一位となりました。佐々木 雅子施設長に話を伺いました。

「終礼時に利用者一人ひとりにどの位作業が出来たかを報告してもらい、目標に向かって皆が頑張れるように支援しています。また、自分が活躍できる場を一つ作り、必要とされていることを感じてもらえる事を第一に考えています。今回は事業所で工賃支給額第一位をお祝いする会を開催しました。記念品としてワークショップ・SUNで作成



NO.1バッジ

した“NO.1 缶バッジ”を利用者のみなさんに配布して、みんなで成果をお祝いしました。今回は特に、利用者全員で一つのチームなのだという事、皆で協力したからこの結果が得られたという事を、利用者全員にお伝えしました。次年度も良い結果が出せるように、一致団結をして頑張ります。」

事業所全体での仕事に対する意識の向上、それを第一に考えている様子がよく伺えました。

平成25年度の第一位に輝いたワークショップ・SUNの利用者工賃支給実績は、54,565円/月でした。

(取材:高橋)

## 地域の活動 あなたの街の応援団

あなたに思い  
を届けます！

すずらの会では、フェスタすずらんやコンサート、収穫祭の開催や地域のお祭りやボランティア活動への参加等を通じて地域貢献活動を行っています。また地域の様々な団体が地域貢献活動に取り組んでいます。

今年度初めてフェスタすずらんにご出演いただいた相模原青陵高校応援団リーダー部の皆さんも、地域貢献活動の一環として、地域の高齢者施設や、お祭りイベントに数多く出演されています。今回、地域に貢献したいという同じ思いから、お互いに何か良い刺激になればと思い、今後の活動に向けて、顧問の後藤先生と団長の田中麻矢さんにお話を伺いました。

「本校の野球部を応援するため『リーダー』という集まりが形成されたのをきっかけに、夏の大会後も学校の式典や説明会での演舞を行う中で、さらなる活動への機運が高まり、同好会から応援団リーダー部の創部にいたりしました。公立高校野球部の応援に本格的な応援団がいること自体が珍しい事で、様々な人に注目され声をかけられるようになり、年間を通して多くの地域の行事で演舞を行うほどになりました。

真夏に学生服を着て、大声を出しながら体を動かし演舞を行うためには、体力と精神力を鍛えるための日頃の猛練習が必要となります。そんな厳しい練習を乗り越えられるのは、やはり部員同士の固い絆と、野球部員や地域の人々からの感謝の言葉です。何よりも地域の人々から、ありがとう、元気をもらったよ、等の感謝の言葉をいただく事で報われるし、やりがいを感じて



団長：田中 麻矢さん

います。時には涙を流して喜んでくださる方もいて、逆に元気をいただいています。地域の人々に貢献し続けるために何をしたら良いか、部員同士で妥協のない意見交換が行われます。本気の思いを届けるため、演舞を軸にしてこれまでに地域のミニ運動会への参加や、バルーンアート、手作りのストラップ、お手玉を配ったりもしています。地域の人々に喜んでもらえる事を第一に考えて、これからも活動を続けていきたいです」

顧問の後藤先生も、生徒自身が考えて行動できることを目指し、指導をしていると言います。「誰かに届ける思いがなかったら、ただ大声を出しているだけでは、相手に響く事はありません。その日その場所の人たちに、こういった思いを伝えたいのか、そこを丁寧に考えれば同じ演舞にはならないし、毎回工夫をする事が出来るのです。そういった工夫は生徒たちの自主性に任せています」

地域交流も、地域貢献活動も、考えていくべきなのは何を行うかなのではなく、こういった思いを持ってどのように伝えていくかという事だと感じました。 (取材：大石・及川)



## 今年私たちの年

未年生まれの職員たち

林 明子 (ワークショップ・フレンド)

◆わたしの 2015 年 / 早寝早起きを実行する。

❁ メエ〜でたい話

長く生きていくと、入学、卒業、入社、結婚、出産などなど、日常の中で感じるめでたき事の多さに驚きます。散歩中に丹精された庭を誉め、照れくさそうに笑顔を交わす。ちょっとしたゆずり合いに笑顔を返す。ご近所の子から、はにかみながらも「おはようございます」と挨拶され成長を感じる。老いた両親と毎朝おはようと挨拶を交わす。夫が記念日を覚え「おめでとう」を言ってくれる。息子の大人びた発言に成長を感じる。このように、幸せな気分気づく機会が増えてひとり満足して喜んでいることが一番おめでたいのかもかもしれません。



齋藤 和貴 (グリーンハウス)

◆わたしの 2015 年 / ベンチプレス 80kg×10 回

❁ メエ〜でたい話

高校の野球部時代、これまでの人生で唯一の柵越えホームラン！をバックスクリーンに打ち込んだこと。実は、ゴロを転がさなければいけない場面で打ってしまい、ダイヤモンドを一周してベンチに戻った後、監督からは「まぐれのホームランで喜ぶな！」と怒られました・・・。



## 公益財団法人小田急財団

の招待により日帰り旅行を実施させていただきました。



対象となる小田急沿線の自治体及び、福祉施設等の中から、社会福祉協議会を通じて、すずらの会ワークショップ・フレンドの利用者に招待があり、11月21日(金)に上野動物園・国立科学博物館・東京ドームホテルでのバイキングと、盛りだくさんの内容で実施させていただきました。公益財団法人小田急財団及び、グループ各社のみなさま、誠にありがとうございました。参加した利用者25名並びに職員一同、この度のご厚意に大変感謝いたしております。



すずらの会父母会様から、ご寄付を頂きました。この場を借りて感謝申し上げます。

### 編集後記

作成を通して、様々な方に出会える事も広報紙作成の醍醐味だと思っています。今回も素敵な方に出会えて感謝しています。

(山下・井上)